トルコ・オスマン家の系図

210803
210816

拡大期259年間（オスマン1世1560年～スレイマン1世1560年）

①オスマン1世（1258～1326=68）1299即位。ルーム・セルジューク朝から独立して建国した

②オルハン（1281～1362=81）1326即位。母はマルハトン。ブルサに遷都した

③ムラト1世（1319～1389=70）1360即位。母はアナトリア。セルビア王国を撃破しエディルネに遷都

④バヤズィト一世（1360～1403=43）1389即位。母は東欧出身。ニコポリスの戦いで十字軍撃破、アンカラの戦いでティムールの捕虜になり自害

⑤メフメト1世（1380～1421=41）10年間の空位後に1413即位。母はデウレト。権力争いで、4人兄弟のうち3番目が勝った

⑥ムラト2世（1404～1451=47）1421即位。母はエミネハトン。東ローマ帝。国を滅ぼすことは可能だったが、恩返しで、しなかった

⑦メフメト2世（1432～1481=49）1443即位・母は東欧出身・1453コンスタンティノープルを滅亡させた

⑧バヤズィト2世（1447～1512=65）＝1481即位。弟ジェムと権力闘争を長く行い1495終了。息子セリム1世に殺害された

⑨セリム1世（1465～1520=55）1512即位・母はギュルバハル・マムルーク朝を征服・聖地メッカ・メディナを支配した

ハフサ・アイシェ

マヒデブラン（1500-1581=81）

⑩スレイマン1世（1494～1566=72）1520即位。第1次ウィーン包囲。イラク征服。地中海の制海権掌握

ロクセラーナ（1502-1558=56）＝ポーランド出身。後宮の女性が政治に関与し始めた

停滞期144年間（セリム2世1560～アフメト3世1704）

ムスタファ（1515-1540）ロクセラーナの差し金で殺害される

⑪セリム2世（1524～1574=50）1560即位。レパントの海戦でカトリック教連合軍に制海権を失う

ヌール・バヌ（1525-1587=62）＝ヴェネツィア元首の娘で政略結婚。政治に口出ししなくて良い環境だった

☞帝国の拡大が収まり安定に入り暇になり、後継者の確保、官僚・軍人の保守化により、外部抗争から内部抗争に移っていった

サフィエ（1550-1618=68）＝ヴェネティア貴族の娘。死別（夫45歳、メフメト53歳）。夫の40人の愛妾達のうち、妊娠中の7人は、生きたまま袋に詰められ、ボスフォラス海峡に沈められた。犯人不明だが暗殺された

⑫ムラト3世（1546～1595=49）1574即位。28歳で就任、遊びに専念し腐敗が進んだ

☞2代連続でヴェネチア人女性が、皇后となった

⑬メフメト3世（1566～1603=37）1595即位サフィエの傀儡・19人の兄弟を殺した・息子殺害のストレスで早死にした

ハンダン（1568-1605=37）＝ボスニア出身で夫の死後、2年間息子を支えたが病死

ハリメ（1567-1623=56）＝北コーカサス出身。長男と夫を同年に失う

マフフィルズ・ハティジェ＝不詳

⑭アフメト1世（1590～1617=27）1603年、13歳で即位。祖母サフィエ53歳、母ハンダン35歳即位した皇帝の兄弟達は全て抹殺する「帝国の掟」を廃止し「黄金の鳥籠」で生かした・ブルーモスクを建設した。

キョセム（1595～1651=56）＝ボスニア出身。2人の息子と孫が若いうちからスルタンになったので、権力を握らざるを得なかった。次男の嫁トゥルハンに殺害された

無能な父の元、帝国が混乱してきた

シェフザーデ・マフムト（1582～1603=21）自信の無い父に殺害された

⑮ムスタファ1世（1592～1639=47）1617即位・精神異常がある・女性嫌い・アフメトの2歳下・1612年にキョセムに救われたことがある

☞反乱を計画するものから先導されないように兄弟を、即位時に殺害する場合と、長男誕生時に殺害する場合がある

皇后キョセムの年齢、死別＝22歳、ムラト即位＝28歳、イブラハム即位＝45歳、メフメト即位＝53歳

⑯オスマン2世（1604～1622=18）1618即位。イェニチェリにより廃位された。、配偶者は4人いたが、後継者はいない

⑰ムラト4世（1612～1640=28）1623即位。病気の床で弟イブラヒムの処刑を命じたが、母后キョセムによって防がれたが、他の兄弟は殺害された妻子なし

トゥルハン（1627-1683=56）＝キョセムを暗殺したが摂政職の乱用はしておらず悪女でない

⑱イブラヒム（1615～1648=33）1640即位。狂人で宮廷内の男女共々ボス歩ラス海峡に投げ込んだ。母、イェニチェリから廃位されて、殺害された。

東欧系の女性

ギュルヌシュ（1642-1715=73）＝出産後義弟達を殺害しようとしたがトゥルハンに止められた、嫉妬心の強い女性

⑲メフメト4世（1642～1693=51）1648即位。父が殺害され6歳で即位。第二次ウィーン包囲。

通算8年間の治世

⑳スレイマン2世（1642～1691=49）1687即位。妻子は不明

㉑アフメト2世（1643～1695=52）1691即位。幽閉所で過ごした

国際化・衰退期の222年間（第23代アフメト3世1704～第36代メフムト6世1926）

イスラム教中心主義から西洋文化導入に切替、繁栄した

サリハ

㉒ムスタファ2世（1664～1703=39）1695年即位。カルロヴィッツ条約により東欧の覇権をハプスブルグ家に奪われる。イスラム教厳格主義の長老が暗殺され退位。

シェルミ

㉓アフメト3世（1673～1736=63）1704即位。チューリップ時代といわれ、イェニチェリの反乱に遭い退位

フランス人のミフリシャー

アナトリアの北部を失う

㉔マフムト1世（1696～1754=58）1730即位。西洋化を進めた。心臓発作の急死

㉕オスマン3世（1699～1757=58）1754即位。在位期間が3年だった

ジョージア女性

㉖ムスタファ3世（1717～1774=57）1757即位。プロイセンと国交開始し露トルコ戦争。

ナクシディル（1768-1817=49）＝カリブ海のマルティニーク出身のフランス人

㉗アブデュルハミト1世（1725～1789=64）1774即位。ロシア、ハプスブルグに敗北したが、国民から愛されていた

ルーマニア女性

㉘セリム3世（1761～1808=47）1789即位。改革を急ぎイェニチェリの反発を受け廃位された

コーカサス女性

㉚マフムト2世（1785～1839=54）1808即位。イェニチェリ制度を廃止、ギリシャ、エジプトの反乱を許す。

グルジア女性

㉙ムスタファ4世（1779～1808=29）1807即位。イェニチェリの権力闘争に巻き込まれ弟に殺害された

㉛アブデュルメジト1世（1823～1861=38）1839即位。クリミア戦争がパリ条約で終了。外国債を発行し、結核で死亡。

22年間で25人の夫人がいた

㉜アブデュルアジーズ（1830～1876=46）1861即位。パリ万博を視察し初めて欧州に行った。浪費癖があり帝国財政が破綻し、ムラト5世が即位し、幽閉先で自殺

㉝ムラト5世（1840-1904=64）1876即位。在位93日

㉞アブデュルハミト2世（1842～1918=76）1876即位。議会閉鎖し専制統治。1894年頃アルメニア人虐殺を行う

㉟メフメト5世（1844～1918=74）1909即位。英仏露に占領され、傀儡的なスルタン

㊱メフムト6世（1861～1926=65）1918即位。1922にトルコ革命が発生しアンカラに遷都し退位

第36代スルタンの退任後の1923年、ギリシャのテッサロニキ出身のアタテュルク（1881-1938=57）がトルコ共和国の初代大統領に就任